

# 株式会社ジェイアールシステム・エンジニアリング 「人は財産」ゆえに全面導入を決めた マイクロソフトオフィススペシャリスト

JRグループ内にあって、『みどりの窓口』などのシステム開発・運營業務をサポートするための事務業務を担当人材を採用・派遣している株式会社ジェイアールシステム・エンジニアリング。

情報システムのプロフェッショナル集団ともいえる同社では、2004年末以来、OA事務担当社員全員のマイクロソフト オフィス スペシャリスト(MOS試験)取得を目指して、さまざまな取り組みを進めてきました。他に類を見ない恵まれた環境のなか、社員の側も会社の期待にしっかりと応えているようです。

## 情報教育充実の一環として検討

—— 導入のいきさつ

ジェイアールシステム・エンジニアリングは、親会社のJRシステムに対して、システム開発やOA事務担当の社員を派遣している人材派遣会社です。社員279人のうち、JRの列車・乗車券に関するデータの作成や、総務・営業・経理などのオフィスワークを行うOA事務部門の社員は約60人。このOA事務部門では現在、マイクロソフト オフィス スペシャリスト(MOS試験)のExcel<sup>®</sup>とWordの全員合格を目指しています。そのような制度を導入した経緯について、ジェイアールシステム・エンジニアリング常務取締役の阿戸勝利さんは次のように説明します。

「私自身、以前は親会社であるJRシステムの総務部に出向していて、ジェイアールシステム・エンジニアリングの派遣社員を受け入れる立場にありました。派遣先では業務に関する知識はもちろん、パソコンの知識も不可欠。当時は、派遣社員をExcelの講習会などに参加させていましたが、期待したほど専門知識が身につかない。そこで、今の会社に戻ってから、“親企業に対する貢献度をさらに高める”という視点で、試験制度の導入を検討しはじめたわけです」

現在、OA部門の社員はすべて女性で、平均年齢は28歳前後。そして、阿戸常務が上記の決断に至った背景には、“女性社員が社会的ハンデを乗り越える一助として、パソコンのスキルを役立ててほしい”という考えもあったと言います。

「社員が結婚などで一時的に職場を離れても、パソコンに関する体系的な知識があれば、再就職も有利ですから。それと、現在のオフィスにおける標準的なソフトといえば、やはりExcelとWord。そこで、広く普及しているソフトの操

作スキルを身につけることは実用的だと考えたんです」

そこでマイクロソフト オフィス スペシャリスト(MOS試験)に白羽の矢を立て、OA事務部門の社員全員に受験させるための体制づくりの準備をはじめたそうです。

「資格を自己啓発の一種として奨励している間は、なかなか自主的に受験してもらえません。でも、本人にとって財産になるスキルですし、また、当社では“人を財産”と考えていて、その財産の価値を高めるためにも、半ば強制的に受験してもらうことにしました」

## 全員合格を目指して徹底サポート

—— 取り組みの実際

OA事務部門の社員に向けてマイクロソフト オフィス スペシャリスト(MOS試験)の導入開始をアナウンスしたのは、2004年の12月。その際、同時に会社としての受験支援体制についても発表され、その支援体制のポイントとしては以下の5つが挙げられます。

- 1) 該当者には会社側が選定した教材を無料配布
- 2) 試験に合格した際の受験料は会社が負担
- 3) ExcelとWordに加え、Access<sup>®</sup>やPowerPoint<sup>®</sup>の受験も支援
- 4) 学習専用のパソコン(業務上での使用は禁止/持ち帰り可能)を全該当者に貸し出し
- 5) 勤務時間中に適宜、勉強できるように派遣先の管理者に会社から別途依頼

このように、同社では通常の企業では考えられないほど充実した支援体制を敷きましたが、そんな体制が実現した背景にはいくつかの理由がありました。例えば、「学習専用パソコン」。このパソコンは、派遣先で使うために社員に支給している業務用パソコンの取替用として購入したものでした。しかし、将来的に旧

み、短期間での合格を果たした総務課の佐藤久美子さんはこう振り返ります。

「もともと、パソコンに関する資格は取りたいと思っていました。その意味でも、マイクロソフト オフィス スペシャリスト(MOS試験)の受験は本当に良い機会になりました。実際、2科目に合格してからはパソコンの操作の幅も広がりましたし、文書作成などの作業自体も楽になりました。自信にもつながりましたね。これから受験される皆さんには、“あまり身構え過ぎず、自分に足りない知識を補うくらいの気軽な気持ちで受けるといいですよ”と、アドバイスしたいです」

同社では現在、OA事務部門の社員以外からも受験希望者が増えているとのこと。また会社側としては、スペシャリスト レベルの合格者には、さらに上級のエキスパート レベル、あるいは4科目制覇のマイクロソフト オフィス マスター (Microsoft® Office Master) も目指してほしい、と考えています。社員にとっても会社にとってもメリットの大きい、この技術力向上策。当面の計画が順調に進んでいることにより、今後のさらなる進展に社員側・会社側双方の期待が高まっています。

モデルからの切り替えをスムーズに進めるためにも、社員には事前に新モデルの操作に慣れてもらう必要があります。そこで当面、新型パソコンはマイクロソフト オフィス スペシャリスト(MOS試験)の受験対策「専用」として、自宅への持ち帰りも可としました。つまり、受験支援策が新型パソコンへのオリエンテーションも兼ねているわけです。毎日の業務で使用しているパソコンよりも、学習用パソコンのほうが現状では新しいモデルのため、学習意欲も高まります。

また、派遣先企業に対して「業務時間中の学習」を容認してもらえるように要請できるのも、親子会社ならではのことで、もちろん、そこまでもなくともマイクロソフト オフィス スペシャリスト(MOS試験)を取得することは可能ですが、あえてそのような取り組みを行う点に、「全員取得」にこだわる同社の意気込みが感じられます。

このような体制のもと、ジェイアールシステム・エンジニアリングでは、2005年1月から2月にかけて学習用教材とパソコンの配布を開始。合格までの目標期間を1科目につき3カ月として、“2005年秋までに2科目合格を目指すこと”という目標を掲げ、マイクロソフト オフィス スペシャリスト(MOS試験)の受験チケットを100枚購入しました。

同社総務課長の清宮純一さんによれば、上記の目標期間を設定するにあたって、社員2名による事前調査を実施したと言います。

「実際に弊社の総務課社員2名に、マイクロソフト オフィス スペシャリスト(MOS試験)を受験してもらいました。使用する教材は社員に配布予定のもののみです。その結果、2名ともExcelは1回目、Wordは2回目で合格。実際の学習期間はそれぞれ1カ月ほどでした。この結果をもとに、我々としても“各3カ月での合格は無理な目標設定ではない”と、判断したんです」

実際、2005年7月までにExcelで20人、Wordで18人がすでに合格。着々と「全員合格」への歩を進めているそうです。

## 将来はOffice Masterの取得も視野に

—— 2科目合格の先にあるもの

マイクロソフト オフィス スペシャリスト(MOS試験)導入前のモデルケースとして受験に臨



国分寺市にある「国立センター」の建物外観

## 株式会社 ジェイアールシステム・エンジニアリング <http://www.jrse.co.jp/>

本社 東京都渋谷区代々木2丁目2番2号 JR東日本本社ビル7階  
国立センター 東京都国分寺市光町1丁目47番4号 中央システムセンター1  
従業員数 約279人(うちOA事務部門 約60人)  
日本を代表する情報システム会社、「JRシステム」の100%出資子会社として1989年に設立。  
「みどりの窓口」の旅客販売総合システム「マルス」をはじめとするJR基幹情報システムを運用する親会社「JRシステム」に対し、システム開発やOA事務関係の人材を派遣している。

### 取材ご協力



常務取締役  
阿戸 勝利 さん

総務部 総務課長  
清宮 純一 さん

総務部 総務課  
佐藤 久美子 さん